

## 教育委員会定例会日程

平成23年1月25日

- 1 開 会
- 2 前回会議録の承認
- 3 会議録署名委員の決定
- 4 議事

### 日程第1

#### 議案第1号

平成22年度3月補正予算について【非公開】

(教育総務課・学校教育課・教育指導課・生涯学習政策課・図書館)

### 日程第2

#### 議案第2号

平成23年度学校教育の基本方針について (教育指導課)

### 5 報告事項

- (1) 平成22年度全国学力・学習状況調査の本市の分析結果について  
(資料1 教育指導課)
- (2) 史跡小田原城跡調査・整備委員会植栽専門部会の設置について  
(資料2 文化財課)
- (3) 酒匂川スポーツ広場災害復旧工事について (資料3 スポーツ課)

### 6 協議事項

- (1) 平成23年度予算について【非公開】 (資料4 学校教育課・生涯学習部)
- (2) 小田原市奨学基金条例の一部を改正する条例について【非公開】  
(学校教育課)
- (3) 平成23年度組織・機構について【非公開】  
(資料5 学校教育課・生涯学習部)

### 7 閉 会

議案第 1 号

平成 2 2 年度 3 月補正予算について

平成 2 2 年度 3 月補正予算について、次のとおり申出するものとする。

平成 2 3 年 1 月 2 5 日提出

小田原市教育委員会  
教育長 前田 輝男

議案第2号

平成23年度学校教育の基本方針について

平成23年度学校教育の基本方針について、議決を求める。

平成23年1月25日提出

小田原市教育委員会  
教育長 前田 輝男

# 平成23年度 学校教育の基本方針及び目的と目標

## 基本方針

小田原市教育委員会は、小田原市教育都市宣言及び新しい学習指導要領の趣旨や目的を踏まえ、子どもの夢と希望と知恵をはぐくむ教育を推進します。

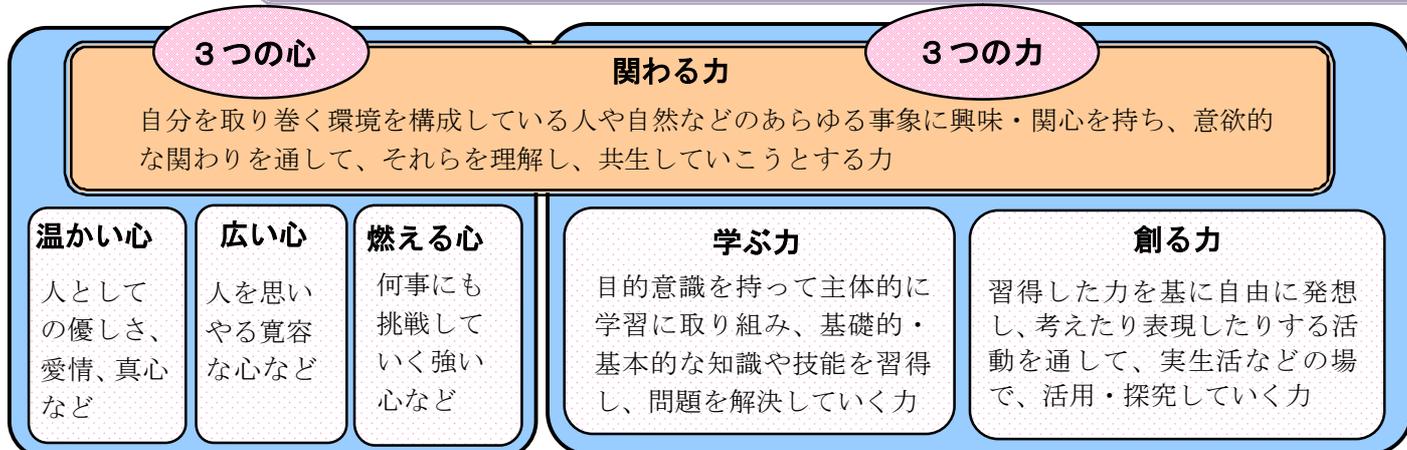
そのために、「**3つの心と3つの力**」を視点として、子どもの豊かな心の育ちを願い、生涯学習の基礎・基本を培い、**未来を拓き、たくましく生き抜く力**を育てていきます。

そして、子ども、保護者、地域の方々、教職員のそれぞれの願いの実現をめざし、共に理解し育ち合い、**学校、家庭、地域が支え合って**、明日が待ち遠しくなるような**魅力ある学校づくり**を展開していきます。



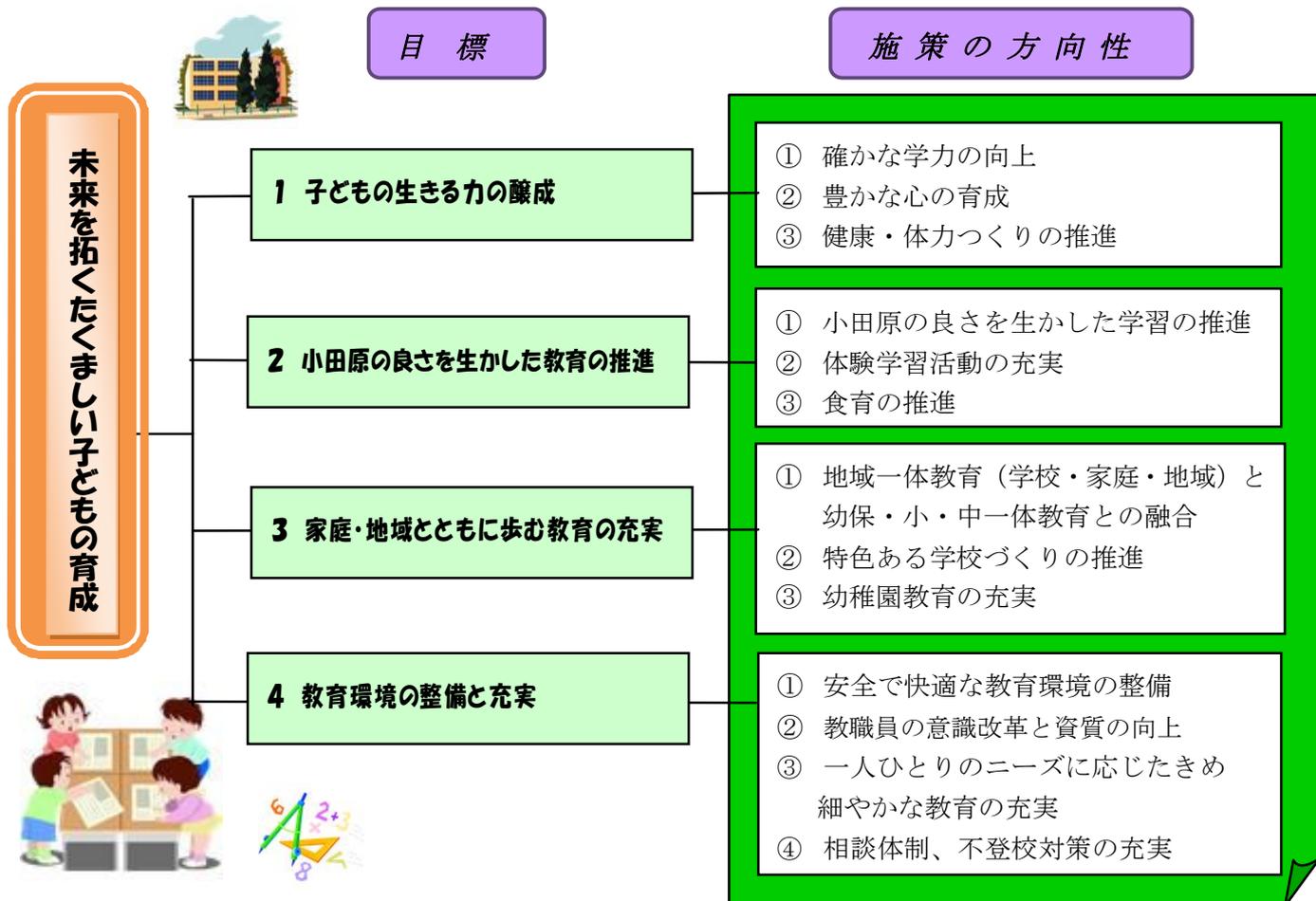
## 目的

未来を拓くたくましい子ども【3つの心と3つの力を持った子ども】の育成



## 目標

## 施策の方向性



平成23年度

## 学校教育に関する取り組みの重点

豊かな心、確かな学力、健康や体力などの「生き抜く力」を育むことは、「未来を拓くたくましい子ども」を育てることであり、それは、将来にわたって持続可能な社会を構築することにつながると考えます。

そのために、「明日が待ち遠しくなるような魅力ある学校」「保護者・地域の方々・教職員の三者が学び合える学校」をめざします。

## 地域一体教育と幼保・小・中一体教育の推進

子ども一人ひとりの幸せと成長を願い、学校・家庭・地域が一体となった地域一体教育と幼稚園・保育所・小学校・中学校が一体となった幼保・小・中一体教育の融合を図り、『未来へつなげる学校づくり』を推進していきます。

- ★ 各校に配置された、学校と保護者や地域の方を結ぶコーディネーターと連携して、教育活動全般にわたって、さらなる**スクールボランティア**の活動の充実を図るなどしていきます。
- ・ 就学前教育から義務教育終了までの11年間を見通して、それぞれの教育目標をふまえた、関連性・連続性のある教育活動を展開していきます。
- ・ 子どもの個性を尊重しながら能力を伸ばし、社会の一員として生きる基盤を育てるために、教職員が指導力を高め、教職への情熱を持って、魅力ある学校づくりに取り組みます。

徳

### 豊かな心の育成

教育活動全体を通して、「自らを律しつつ、他者とともに協調し、他者を思いやる心」、「生命や人権を尊重する心」、「感動する心」など豊かな心をはぐくむ教育をめざします。

- ★ 子どもの心の安定と規範意識の向上を図るために、保護者や地域の方とともに、「**おだわらっ子の約束**」を実行していきます。
- ・ 子どもの感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにするために、読書活動を推進します。

知

### 確かな学力の向上

「基礎的・基本的な知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学習意欲」などを含む確かな学力の向上をめざします。

- ★ 「わかる授業」を充実させるために、積極的な**授業公開**・校内研究や多面的な**授業評価**等を行っていきます。
- ・ 基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視し、さらなる指導方法の工夫・改善に取り組めます。

体

### 健康や体力づくり・食育の推進

生涯にわたり、主体的に運動に取り組み、体力の向上を図るとともに、生活リズムを整え、自ら「食」とかかわり、自らの健康を適切に管理・改善できる子どもの育成をめざします。

### 不登校やいじめの解消への取り組み

- ★ 学校・家庭・地域や幼稚園・保育園・小学校・中学校の教職員が一体となって、魅力ある学校づくりを推進することにより、**不登校**やいじめなどの解消をめざした取り組みをより一層強化していきます。

### 支援教育の充実

自らの力で解決することが困難な課題(教育的ニーズ)を抱え、教育上配慮を要する子ども一人ひとりへの適切かつきめ細やかな指導の充実をめざします。

- ★ **保護者との連携**を図っていくとともに、交流及び共同学習を推進していきます。

### コミュニケーション能力の向上

相手の考えや思いをしっかりと受けとめ、自分の考えや思いを積極的に表現するなどして、より良い人間関係をつくることのできる子どもの育成をめざします。

### 郷土を愛し、大切に学習の充実

郷土の偉人、自然、歴史・文化などを学ぶことを通して、郷土を愛し、大切に学習の充実を持つとともに、小田原に誇りを持つ子どもの育成をめざします。

### 子どもの安全・安心の確保

学校における安全指導・安全管理の徹底を図るとともに、家庭・地域との密接な連携のもとに、子どもの安全・安心の確保の一層の推進を図ります。

\* 各学校は、上記の重点のうち、★の取り組み(特に**ゴシック文字**で示すもの)を、**学校評価の共通評価項目**として設定します。

## 平成 22 年度 全国学力・学習状況調査の本市の分析結果について

小田原市教育委員会

### 1 はじめに

平成 22 年 4 月に実施された「平成 22 年度全国学力・学習状況調査」の本市の調査結果の概要についてお知らせします。小田原市教育委員会では、学校における指導や教育計画の見直し、教育委員会の施策の見直しに活かすべく、全国学力・学習状況調査の結果を、独自に分析してまいりました。分析結果については、昨年度から、市全体の平均正答率等、数値を全国の数値と比較する形で公表しております。しかしながら、今年度調査の参加形態が、抽出調査と希望利用方式の併用による全校参加であったことから、採点基準や集計の精度に関する信頼性を考慮に入れると、抽出調査の結果を本市の結果としてまとめることが妥当であると判断しました。従って、本書の平均正答率等の数値は、抽出調査の結果を採用しております。また、お示ししている全国の平均正答率等の数値も、抽出調査であることから、誤差±1%程度の精度となっていることに留意する必要があります。以上のことを踏まえ、希望利用校においては、抽出校の結果を参考にして自校の学力・学習状況の課題等を把握し、改善につなげていただきたいと思いますと考えております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえ、分析結果については、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮して取り扱う必要があります。従って、本内容をご活用の際にはこの趣旨を十分ご理解いただき、適切な取扱いをされますようお願いいたします。

### 2 調査の概要

#### ○ 調査の目的

- (1) 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

#### ○ 調査の実施日

平成22年4月20日(火)

#### ○ 調査の対象

小学校第6学年 中学校第3学年

#### ○ 調査の内容

- (1) 教科に関する調査
  - ・国語A, 算数・数学A(主として「知識」に関する問題)
  - ・国語B, 算数・数学B(主として「活用」に関する問題)
- (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
  - ・児童生徒に対する調査
  - ・学校に対する調査

### 3 教科に関する調査について

#### 【小学校国語】

##### (1)小田原市の傾向と特徴

###### 《平均正答率》

単位%

年度		小田原市	全国	平均正答率の95%信頼区間	全国比
19	小学校国語A	80.6	81.7	/	-1.1
	小学校国語B	60.0	62.0		-2.0
20	小学校国語A	62.4	65.4		-3.0
	小学校国語B	47.4	50.5		-3.1
21	小学校国語A	66.8	69.9		-3.1
	小学校国語B	48.3	50.5		-2.2
22	小学校国語A	82.2	83.3	83.2 ~ 83.5	-1.1
	小学校国語B	77.9	77.8	77.7 ~ 78.0	+0.1

※平均正答率の95%信頼区間…平成22年度調査は抽出調査であり、悉皆調査を行った場合の平均正答率の範囲として文部科学省が算定したもので、その区間に入る確率が95%であるもの。

###### 《全体の傾向》

初めて、B問題の平均正答率が全国を上回った。A問題B問題ともに、全国とほぼ同程度であり、正答率からも概ね良好な状況であると判断できる。

###### 《特徴》

△…良好 ▼課題

本市の傾向	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
小学校国語A	△	▼		△
小学校国語B		△		

##### (2)領域ごとの結果の概要《小学校国語A》

###### 話すこと・聞くこと

<p>〈設問の内容〉 6</p> <p><b>話の全体の構成を工夫する</b></p> <p>聞き手が理解しやすいように、話の全体の構成を工夫することができるかどうか。</p>	<p>小田原市正答率 84.8 % 全国正答率 83.3 %の問題</p> <p>〈傾向分析〉</p> <p>△話の意図が聞き手に明確に伝わるように、全体の構成を工夫しながら話すことが重要である。ここでは、話の全体の構成を示した後に部分の説明をするという、説明の工夫をとらえることが求められており、正答率から判断し、おおむねその力についてはついてきていると考えられる。</p>
--	--

###### 書くこと

<p><b>〈改善のポイント〉</b></p> <p>○複数の文を一文に要約する学習や、長い一文を複数の文に書き分けること。</p> <p>○指示された字数で書いたり、文の数や文末表現等の多様な条件に合わせて適切に書いたりすること。</p>
--



<p>〈設問の内容〉 4</p> <p><b>文の構成を考えて書く</b></p> <p>文と文との意味のつながりを理解し、文の論理を考えて書くことができるかどうか。</p>	<p>小田原市正答率 58.4 % 全国正答率 60.4 %の問題</p> <p>〈傾向分析〉</p> <p>▼文の論理を考え、構成を整えて書くことや例文に習って、同じような文のつくりで必要のある事柄をつなげながら、文章を完成することに課題が見られた。</p>
---	--

**読むこと**

〈設問の内容〉 2 <b>文章の内容を把握する</b> 説明的な文章の内容を的確に押さえながら、読むことができるかどうか。	小田原市正答率 85.3% 全国正答率83.5%の問題 〈傾向分析〉 △中心となる語や文をとらえて、筆者がどのような判断や主張をしているのかを読むことが求められており、正答率から判断し、おおむねその力がついていると考えられる。
---	---

**言語事項**

〈設問の内容〉 1二 <b>漢字を書く</b> 前の学年までに配当されている漢字を正しく書くことができるかどうか。	小田原市正答率 71.0% 73.2% 87.6% 全国正答率 80.3% 74.9% 90.4%の問題 〈傾向分析〉 ▼漢字によって、おおむね満足ができるものと、大きく数値が下回るものがあり、やや課題と見られる。
〈設問の内容〉 7 <b>多義語の意味</b> 文脈に適した多義語の意味を理解することができるかどうか。	小田原市正答率80.5% 全国平均正答率 81.5%の問題 〈傾向分析〉 △国語辞典に示された意味と例文とを関係づけた上で、文脈に適した意味を適切にとらえることを求められており、正答率から判断して、おおむねその力についてはついてきていると考えられる。
〈設問の内容〉 9 <b>複合語の構成</b> 語句の構成や語形の変化を理解することができるかどうか。	小田原市正答率93.8% 89.8% 全国正答率 95.4% 91.7%の問題 〈傾向分析〉 △動詞を組み合わせて、一つの複合語を作ったり、一つの複合語を適切に分けたりすることにおいて、語形を変化させて書くことが、正答率から判断し、おおむねその力についてはついてきていると考えられる。

**(3) 領域ごとの結果の概要《小学校国語B》****書くこと**

〈設問の内容〉 1 <b>読み手の評価を生かす</b> 目的や意図に応じて、読み手が評価した内容を整理し、表現の効果などについて確かめたり工夫したりすることができるかどうか。	小田原市正答率 96.0% 90.0% 全国正答率 93.8% 89.6%の問題 〈傾向分析〉 △発行した学校新聞に対する意見を取り入れ、読み手が評価した2つの内容について、意見とその理由を整理した上で、学校新聞における表現の効果などについて確かめたり工夫したりする能力や態度が求められ、正答率から判断して、その力についてはついてきていると考えられる。
---	---

**読むこと**

〈設問の内容〉 4 <b>情報を関係付けて読む</b> 目的や意図に応じて、必要な情報を関係付けて読み、理由を明確にして説明することができるかどうか。	小田原市正答率 62.5% 全国正答率 65.7%の問題 〈傾向分析〉 ▼複数の情報を比べて読み、条件を満たしているものを選択した上で、その理由を明確にして説明することが求められること、また、文を構築することに課題が見られる。
---	---

**【中学校国語】**

**(1)小田原市の傾向と特徴**

《平均正答率》

単位%

年度		小田原市	全国	平均正答率の95%信頼区間	全国比
19	中学校国語A	79.7	81.6	/	-1.9
	中学校国語B	70.0	72.0		-2.0
20	中学校国語A	72.1	73.6		-1.5
	中学校国語B	58.9	60.8		-1.9
21	中学校国語A	75.3	77.0		-1.7
	中学校国語B	72.5	74.5		-2.0
22	中学校国語A	74.8	75.1	75.0 ~ 75.2	-0.3
	中学校国語B	63.0	65.3	65.1 ~ 65.5	-2.3

※平均正答率の95%信頼区間…平成22年度調査は抽出調査であり、悉皆調査を行った場合の平均正答率の範囲として文部科学省が算定したもので、その区間に入る確率が95%であるもの。

《全体の傾向》

全国的にA問題に比べてB問題の正答率が低くなっているが、これは、小田原市においても同様の結果である。「話すこと・聞くこと」についての基礎的・基本的な知識・技能については、おおむね身につけていると言えるが、「読むこと」と連動した「書くこと」に課題が見られる。

《特徴》

△…良好 ▼課題

本市の傾向	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
中学校国語A				
中学校国語B		▼		

**(2)領域ごとの結果の概要《中学校国語A》**

**〈改善のポイント〉**  
 読みやすく分かりやすい文章を書く力を身に付けるために、書いた文章を読み返す機会を学習に位置づけて、推敲することが習慣になるようにする。また、様々な種類の文章を読んで内容を的確にとらえるために、書き手が文章を書こうとした目的と、それに応じた表現の仕方について考えさせることが大切である。



話すこと・聞くこと

<p>〈設問の内容〉 ③ 一  <b>表現の仕方に注意して説得力のある話をする</b>                  二人の演説についてそれぞれの話し方の工夫をとらえることができるかどうか。</p>	<p>〈傾向分析〉                  小田原市正答率 56.9 % 全国正答率 58.9 %の問題                  ▼話の内容や意図に応じた適切な語句の選択、文章の効果的な使い方など説得力のある表現の仕方に注意して、話したり聞き取ったりすることに課題がある。</p>
<p>〈設問の内容〉 ⑦ 二  <b>話し合いを効果的に展開させる発言の役割について理解する</b>                  話し合いが効果的に展開するよう、意見を述べることができるかどうか。</p>	<p>〈傾向分析〉                  小田原市正答率 83.9 % 全国正答率 82.4 %の問題                  △相手の立場や考えを尊重し、話し合いが目的に沿って効果的に展開するように話したり聞き分けたりして、自分の考えを深めることは、正答率から判断し、おおむね理解はできている。</p>

## 書くこと

〈設問の内容〉 4 二 書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にする 二文目には適切な主語を補いながら一文を二文にして書けるかどうか。	〈傾向分析〉 小田原市正答率 39.2 % 全国正答率 41.4 %の問題 ▼文の意味を変えずに一文を二文に分けたり、設問の条件を満たしながら解答したりする力に課題がある。
--	--

## 読むこと

〈設問の内容〉 1 現代語訳を参考にして古文の内容をとらえる 古典を読む際に、現代語訳を参考にして古文の内容をとらえることができるか。	〈傾向分析〉 小田原市正答率 76.9 % 全国正答率 83.6 %の問題 ▼文脈のなかにおける語句の意味を正確にとらえ、理解することに課題がある。
〈設問の内容〉 6 一 表現の仕方に注意し、その効果を考える 解説文で述べている工夫に該当する部分を詩の中から見付けることができるかどうか。	〈傾向分析〉 小田原市正答率 64.0 % 全国正答率 69.6 %の問題 ▼表現の仕方や文章の特徴に注意して読むことに課題がある。

## 言語事項

〈設問の内容〉 10—1・2・3 文脈に即して漢字を正しく書く 言語や言語文化に関する知識、技能を身に付け、文や文章の中で適切に用いることができるかどうか。	〈傾向分析〉 全国正答率と比べて、小田原市は若干ではあるが、低い。 ▼学年別漢字配当表の漢字のうち、950字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことに、若干課題がある。
〈設問の内容〉 10 六 辞書を活用して、ことわざの文脈における意味を理解する 国語辞典で調べたことを基に、ことわざに込められた思い考えることができるかどうか。	〈傾向分析〉 小田原市正答率 72.8 % 全国正答率 75.6 %の問題 ▼語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意することに課題がある。

### (3) 領域ごとの結果の概要《中学校国語B》

〈改善のポイント〉 日頃から、新聞記事を使って感想を書かせ、世の中の出来事や自分自身を見つめさせる指導を繰り返す必要がある。また、難解な比喻表現でも、その表現から思い浮かぶことを連想し、周辺の語句と結びつけながら文全体の意味を考える学習が必要である。
--



## 書くこと

<p>〈設問の内容〉 1 三  <b>記事文に書かれている内容を基に、自分の考えを書く</b>          3つの新聞記事の中から興味を持った記事を選び、どのような内容について興味をもったのかという条件を満たした感想文を書けるかどうか。</p>	<p>〈傾向分析〉          小田原市正答率 45.5 % 全国正答率 51.6%の問題  <b>▼自分の考えや思ったことを具体的に書くことに課題が見られた。</b></p>
---	---

## 読むこと

<p>〈設問の内容〉 3 二  <b>表現の仕方に注意して読み、内容について理解する</b>          比喩的な表現で書かれた内容について、前後の文から類推して内容を捉え、条件に合わせた言葉で表現できるかどうか。</p>	<p>〈傾向分析〉          小田原市正答率 31.3 % 全国正答率 35.5 %の問題  <b>▼前後の文脈や文章全体の流れに沿って、部分を読み解く力に課題が見られた。</b></p>
--	--

## 【小学校算数】

### (1)小田原市の傾向と特徴

#### 《平均正答率》

単位%

年度		小田原市	全国	平均正答率の95%信頼区間	全国比
19	小学校算数A	80.5	82.1	/	-1.6
	小学校算数B	61.4	63.6		-2.2
20	小学校算数A	71.6	72.2		-0.6
	小学校算数B	50.0	51.6		-1.6
21	小学校算数A	76.9	78.7		-1.8
	小学校算数B	54.1	54.8		-0.7
22	小学校算数A	73.3	74.2	74.0 ~ 74.4	-0.9
	小学校算数B	48.1	49.3	49.1 ~ 49.5	-1.2

※平均正答率の95%信頼区間…平成22年度調査は抽出調査であり、悉皆調査を行った場合の平均正答率の範囲として文部科学省が算定したもので、その区間に入る確率が95%であるもの。

#### 《全体の傾向》

小学校算数A・Bともに、市の抽出校の平均正答率は全国の平均正答率とほぼ同程度であり、これは調査が開始された平成19年度から変わらない傾向である。また、全国的にA問題に比べてB問題の正答率が低くなっており、さらに、B問題の方が無解答率が高い傾向にあることも変わらない。これは、小田原市においても同様の結果である。

以上のことから、昨年度までと同様、数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能はおおむね身につけているが、基礎的・基本的な知識・技能を活用して事象を数理的に考察したり、処理したりして解決することに課題がある。

#### 《特徴》

△…良好 ▼…課題

本市の傾向	数と計算	量と測定	図形	数量関係
小学校算数A				▼
小学校算数B	▼	▼	▼	▼

平均正答率の全国との比較で見ると、A問題では、数量関係のみが3ポイント以上のマイナスであり、なおかつ正

答率が 62.3%と7割を切っている状況であることから課題であると言える。この状況は、昨年度とも変わっていない。

また、B問題では、すべての領域において数学的な見方や考え方が課題である。特に、解答の理由を考えて文章や式を使って説明する問題では無解答率も高く、筋道立てて考えた内容を表現することは、昨年度に引き続き大きな課題である。

## (2) 領域ごとの結果の概要《小学校算数A》

### 数と計算

整数×小数や整数÷小数などの基本計算の技能が確実に身につけていない児童が見られる。今後もスパイラルな指導により、基本計算力の習得を目指す必要がある。また、示された問題の文章から除法を用いると判断すること、被除数にあたる数と除数にあたる数とを判断することに課題が見られる。示された数量を図に表す活動を取り入れ、数量の関係をとらえ、用いる演算を判断できるようにさせたり、商が1より小さくなる等分除について具体的な場面に当てはめて考えさせたりするなど、丁寧に指導する必要がある。

### 量と測定

円の面積の求め方については、円を分割して並べ替えた時にできる長方形について横の長さが円周の半分であることの理解に課題が見られる。また、台形の面積を求めることができない児童が約3割見られる。基本的な図形の求め方については、紙に書いた図形を実際に切って並び替えたり、組み合わせたり、並び替える前と後の図形の対応を確認したりする活動を取り入れ、公式の意味を確実に理解できるようにしていく必要がある。

### 図形

図形の定義や性質の理解については、おおむね良好である。今後も引き続き、基本的な平面図形の性質を理解できるようにさせるとともに、以前習った図形についても、上の学年で図形の学習を行うときには、既習事項として定義等を確認したり、習熟を図ったりする活動を取り入れ、繰り返し指導する必要がある。

### 数量関係

割合の基本的な理解が十分でない児童が多い。問題の文章から何が比較量で何が基準量かをとらえること、割合は「比較量」÷「基準量」で求めることができることの理解が十分ではない。児童にとって、割合は理解しにくい単元であることから、そのもととなる第3学年の包含除の場面での倍の意味、第4、5学年の小数倍の意味の考え方から系統的にテープ図や線分図を取り入れながら、丁寧に扱っていく必要がある。

また、乗除先行の決まりの理解が不十分であり、指導の徹底が必要である。

## (3) 領域ごとの結果の概要《小学校算数B》

### 物事を数・量・図形などに着目して観察し、的確にとらえること

問題6(1)は、バスのドアが動く様子を表した図を見て、ドアの下にできる三角形について、その名前を選び、判断の理由を選ぶ問題である。合同の意味や図形の性質を理解していることが求められる。正答率は64.1%である。身の回りの事象を観察して、図形の定義や性質をもとに、事象から見出した図形を判断し、その理由を選択することに課題がある。身の回りの事象から図形を見いだす活動やその図形と見なすことができる理由を説明する活動を授業の中に取り入れていく必要がある。

### 与えられた情報を分類整理したり必要なものを適切に選択したりすること

問題3(1)は、3つの円グラフをみて、けがが最も多く起こった場所を書く問題である。円グラフの読み方やかき方を理解していることが求められる。正答率は、95.7%であり、相当数の児童が示された3つの円グラフから目的に合うものを選び、その円グラフから必要な情報を読み取ることができている。しかし、資料を関連付けて考察し、課題を解決することに課題がある。今後は、授業の中で、複数の資料を与えて、資料を関連付けて読み取れるようにしていくとともに、情報過多や情報不足の問題にも意図的に取り組ませる中で、「なぜ、その情報が必要なのか。」「なぜ、その情報が必要ないのか。」のわけを考えさせていくことが必要である。

### 筋道を立てて考えること

問題2(1)は、平面上に書かれた立体図形や平面図形、与えられた条件をもとに長方形の大きさを考え、それを辺の長さと言葉を用いて記述する問題である。わかることを1つ1つ明らかにしていき、筋道を立てて考えていくことが求められる。正答率は、32.8%であった。問題に示された数値や条件をもとに式、図、絵などを用いて答えを導き出した後、言葉で補って説明させる活動を行い、その中で「なぜそうなったのか。」「どうしてそう考えたのか。」といった発問を意図的に取り入れ、考えの根拠を言わせるような活動が大切である。

### 振り返って考えること

問題4は、平行四辺形に対してなされた説明を解釈し、それを台形に適用して、示された面積が等しいことの説明を言葉を用いて記述する問題である。正答率は、29.2%であり、無解答率も高い。授業の中で、1つの問題を解いた後に、そこで終わりにするのではなく、問題の条件を変えた新しい問題場面で、発展的に考えさせたり、一般化して考えさせたりする活動を取り入れていくことが必要である。

### 事象を数学的に解釈すること

問題1(1)は、鉛筆1本の定価を整数にするために、おつりの金額を何円に変えればよいかを選ぶ問題である。正答率は、57.2%である。示された式を解釈し、条件に合うように変更することに課題が見られる。授業の中で問題づくりの活動を取り入れるとともに問題が成り立っているか、答えの数値が適切であるかなど吟味する活動を取り入れていく必要がある。

### 自分の考えを数学的に表現すること

「わけを言葉や式を使って書きましょう。」等の記述式の問題の正答率は、全国的に低いが、これは、本市においても同様であり、この状況は、昨年度とも変わっていない。自分の考えを図や式、数直線などで表現する技能を身につけさせるとともに、書く、話す場面を授業の中で意図的に取り入れていく必要がある。

## 【中学校数学】

### (1)小田原市の傾向と特徴

#### 《平均正答率》

年度		小田原市	全国	単位%	
				平均正答率の95%信頼区間	全国比
19	中学校数学A	68.3	71.9	/	-3.6
	中学校数学B	58.2	60.6		-2.4
20	中学校数学A	61.8	63.1		-1.3
	中学校数学B	47.9	49.2		-1.3
21	中学校数学A	61.4	62.7		-1.3
	中学校数学B	56.4	56.9		-0.5
22	中学校数学A	63.7	64.6	64.4 ~ 64.8	-0.9
	中学校数学B	42.5	43.3	43.1 ~ 43.5	-0.8

※平均正答率の95%信頼区間…平成22年度調査は抽出調査であり、悉皆調査を行った場合の平均正答率の範囲として文部科学省が算定したもので、その区間に入る確率が95%であるもの。

#### 《全体の傾向》

中学校数学A・Bともに、市の平均正答率は、全国の平均正答率とほぼ同程度である。これは、調査が開始された平成19年度から変わらない傾向であるが、全国比をみると若干向上する傾向にある。また、全国的にA問題に比べてB問題の正答率が低くなっているが、小田原市においても同様の結果である。

以上のことから、数量や図形についての基礎的・基本的な知識、技能はおおむね身につけているが、基礎的・基本的な知識・技能を活用して事象を数理的に考察したり、処理したりして解決することに課題があると考えられる。

また、今回の受検者は平成19年度小学校6年生であり、その時の全国比をみるとA-1.6ポイント、B-2.2ポイントであり、ほぼ同程度であるが、若干の向上を見ることができる。

《特徴》

△…良好 ▼…課題

本市の傾向	数と式	図形	数量関係
中学校数学A			▼
中学校数学B	▼	▼	▼

全国の平均正答率を見ても同様の傾向であるが、A問題の数量関係領域が54.2%と60%を切る正答率であり、課題が残る。

一方、B問題では、すべての領域において数学的な見方や考え方が課題である。特に、解答の理由を考えて文章や式を使って説明する問題では無解答率も高く、事象を数学的にとらえて、数学的な表現を用いて筋道を立て説明することに大きな課題がある。また、昨年度に比べ、図形領域の正答率が他の領域と比較すると低く、数量関係と関連させながら指導する対策を考える必要がある。

(2) 領域ごとの結果の概要《中学校数学A》

**数と式**

方程式の解の意味の理解(正答率 56.5%)や、分数を含む1次方程式を解くこと(正答率 55.6%)が弱い。特に、方程式の解の意味の理解が不十分であることは、方程式のよさを実感できず、立式して問題解決することが困難となっていく。様々な数を方程式に代入するなど、解を試行錯誤して探す体験や、方程式から具体的事象の意味を考える力を強化する学習が必要となる。また、分数を含む1次方程式の解法については、昨年度に引き続いた課題であり、等式の性質を利用して工夫して方程式を解く技能を教科する必要がある。

**図形**

円柱の体積を求める(正答率 40.7%)技能が弱い。柱体の体積は、(底面積)×(高さ)で求められることの理解が弱く、円の面積と円周の長さとの混同もみられる。今回の受検者は、平成19年度小学校6学年の際、本調査で円の面積を求める問題に取り組んでいる。その時の正答率は70.3%であったが、円の面積と円周の長さを混同した誤答が見られた。今回も底面積の部分を円周と混同している誤答があり、小学校での課題が未解決のまま中学校に引き継がれていると考えられる。面積という量的な実感を持たせるとともに継続的な反復学習が必要である。

また、証明の意義についての理解(正答率 42.5%)が弱い。証明の意義や必要性については、平成19年度より毎年形を変えて出題されているが、設問によって正答率に差異が出る。一般的な命題が証明されれば、その仮定を満たすように条件を加えた特殊な場合でも、同じ結論が成り立つことが保証されることについて、例えば二等辺三角形の底角が等しいことを証明した後で、正三角形の2つの角が等しいことを改めて証明する必要があるかを考える場面を設定するなどして、理解を深める必要がある。

**数量関係**

比例のグラフから $x$ の変域に対応する $y$ の変域を求める(正答率 48.6%)技能が弱い。無解答率も21.1%あることから、 $x$ の変域に対応する $y$ の変域の意味の理解が不十分であり、グラフを用いて視覚的にとらえる指導が必要である。また、1次関数の式から変化の割合を求める(正答率 56.0%)ことについても、無解答率が23.8%あり、1次関数の変化の割合の意味の理解が弱い。さらに、具体的な事象から1次関数の関係を見出し、式で表す(正答率 21.7%)技能は大きな課題である。今回の受検者は、平成19年度小学校6学年の際、同じ問題で表を作り、縦の長さが変化するときの横の長さの変化について問われているが、正答率は70%を超えていた。ともなう変わる2つの量の変化についてはわかるが、そこから式を導き出すことに課題がある。

関数の指導においては、表・グラフ・式の相互関係の指導とともに、事象から、比例、反比例、1次関数の関係を見出し、それを表現する活動を強化することが必要である。

(3) 領域ごとの結果の概要《中学校数学B》

**物事を数・量・図形などに着目して観察し、的確にとらえること**

問題5(1)では、パイプいすの構造を図形に着目して観察し、その特徴を的確にとらえること(正答率 56.3%)が求められているが、無解答率が18.2%と高い。日常的な事象を観察し、数・量・図形などやその要素の関係を見だし、

条件や性質としてその特徴をとらえるように指導することが必要である。

#### 与えられた情報を分類整理したり必要なものを適切に選択したりすること

問題1(2)では、与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、連立方程式を作り問題解決することが求められているが、正答率は35.3%と低く、無解答率も22.7%となっている。

目的に応じて情報を適切に選択し、数学を活用することができるようにするために、実生活の場面での問題を解決する機会を設定し、情報を適切に選択する経験を豊かにする指導が必要である。

#### 筋道を立てて考えること

問題2(2)は、連続する3つの奇数の和が3の倍数になることを説明するものであるが、正答率は25.0%と低く、無解答率は30.8%と正答率を上回っている。また、問題4(2)は、発展的に考えて証明するもの(正答率45.1%)であるが、無解答率が25.0%ある。

根拠を明らかにして、それに基づいて結論を導く過程を重視する指導をし、筋道を立てて考える力をつけることが必要である。また、問題の条件を変えて発展的に考え、新たな事柄を予想する力をつけることも必要である。

#### 振り返って考えること

問題4(1)は、与えられた証明を読み、そのしくみを考えるもの(正答率42.9%)であるが、全国の正答率に比べると低く、無解答率は15.2%ある。証明を読むことは、証明の仕組みを理解するうえで大切であり、振り返って考えることで、論証の力を深めることにつながる。根拠としてどのような性質や関係が用いられているか、結論を導くためにどのような条件や根拠が用いられているかを確認するなどの活動を取り入れ、指導する必要がある。

#### 事象を数学的に解釈すること

問題3(2)は、実生活の場面で、複数の事象を比較する際に、グラフに表現することで問題を解決するものであるが、正答率30.6%とともに無解答率も28.6%と低い。同様に、問題6(1)は、事象をグラフに表したり、グラフを事象に即して解釈したりすること(正答率39.7%)をねらいとしたものだが、無解答率は47.2%と正答率より高くなっている。

表やグラフに表された情報について理解し、自分なりの視点を定めて目的に応じて選択し、判断できるよう指導することが大切である。そのために、事象とグラフなどを対応させて考える活動を取り入れ、問題を解決する上でグラフなどを活用するよさを実感できる指導が必要となる。

#### 自分の考えを数学的に表現すること

問題5(2)は、平行四辺形になることを証明するための根拠となる事柄を書くものであるが、正答率は9.5%ときわめて低い。また、無解答率も45.4%と高い。

道工具箱のアームと平行四辺形が結びつかないなど、日常的な事象を図形に着目して観察する経験が少ないと考えられることから、日常的な事象を観察し、成り立つ数学的な事柄を、記述したり、発表しあったりして、数学的に説明する活動を取り入れながら指導することが必要である。

## 4 児童・生徒質問紙調査について

○…概ね良好な傾向が見られる項目 □…課題の見られる項目

\*以外の数値…「当てはまる」と「どちらかと言えばあてはまる」等肯定的な回答の割合の合計

### 小学校

#### ① 学習に対する関心・意欲・態度等

○ 昨年度と同様、多くの児童が①「国語・算数の勉強は大切である」、②「国語・算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」と回答している。

(① 国語:市92.1% 全国91.6% 算数:市94.5% 全国92.1%)

(② 国語:市87.8% 全国87.3% 算数:市89.8% 全国89.0%)

- ・ 昨年度と同様、「算数の勉強が好き」と回答した児童の割合は、「国語の勉強が好き」と回答した児童の割合を上回るが、国語と算数の差は縮まっている。また、「『総合的な学習の時間』の勉強が好き」と回答した児童の割合は、さらに上回っている。しかし、小田原市では昨年度よりポイントが下がっている。

(国語:市 60.3% 全国 62.1% 算数:市 66.0% 全国 63.8% 総合:市 80.2% 全国 78.5%)

- ①「読書は好きである」と約 3/4 の児童が回答しているが、②「1日あたり 30 分以上読書している」児童の割合は約 1/3 である。また、③「休み時間や放課後、休日に学校や地域の図書館へ月に1~3回程度以上行く」児童の割合は 1/3 弱で昨年度よりも減少し、全国平均との差も 16.3 ポイントと昨年度よりも差が広がっている。

(① 市 72.8% 全国 73% ②\* 市 33.3% 全国 35.9% ③\* 市 27.2% 全国 43.5%)

- 「普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思う」児童の割合が約 1/2 と低く、昨年度よりも減少している。

(\* 市 46.7% 全国 54.1%)

## ② 学習時間

- 「普段、学校の授業時間以外に1日当たり1時間以上勉強する」児童の割合は昨年度より若干増加している。

(\* 市 52.6 % 全国 58.2%)

- 昨年度と同様、「家で学校の宿題をしている」児童は多い。(市 95.9% 全国 96.0%)

- ①「家で自分で計画を立てて勉強をしている」、②「家で学校の授業の予習や復習をしている」児童の割合は、「宿題をしている」児童の割合より少ない

(① 市 56.7% 全国 58.3% ②予習:市 44.8% 全国 40.4% 復習:市 47.4% 全国 49.6%)

- ①「家で苦手な教科の勉強をする」、②「家でテストで間違えた問題について勉強をする」児童の割合は、「宿題をする」児童の割合より少ないが、昨年度よりも増加している。

(① 市 48.8% 全国 49.9% ② 市 52.6% 全国 51.8%)

## ③ 学校生活

- 昨年度と同様、①「学校で友達に会うのは楽しいと思っている」児童、②「学校で好きな授業がある」児童が多い。(① 市 96.0% 全国 96.5% ② 市 95.5% 全国 94.0%)

## ④ 基本的な生活習慣

- ・ 昨年度と同様、①「朝食を毎日食べている」児童の割合は多い。しかし、②「あまり食べていない」児童もいることは課題である。(① 市 95.0% 全国 96.4% ②\* 市 4.8% 全国 3.6%)

- 昨年度と同様、「毎日同じくらいの時刻に起きている」児童が多い。(市 85.5% 全国 75.5%)

- ・ 約 8 割の児童が、午前 7 時以前に起床し、昨年度よりも早くなっている。また、昨年度よりも「就寝時刻は若干早め」になり、改善傾向にある。

(\*午後 10 時前に就寝 市 47.9% 全国 43.8%)

- 昨年度と同様、「学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめている」児童が多い。

(市 88.1% 全国 85.1%)

- 昨年度と同様、1日に2時間以上①「テレビやビデオ・DVD を見たり、聞いたりする」児童、②「テレビゲームをする」児童は多い傾向にある。

(①\* 市 67.4% 全国 67.6% ②\*市 26.4% 全国 23.0%)

## ⑤ 家庭でのコミュニケーション

- 昨年度と同様、①「家の人と普段、夕食を一緒に食べている」児童が多く、さらに増加している。また、②「家の人と学校での出来事について話をする」児童の割合も昨年度より増加している。

( 市 90.2% 全国 89.6% ②市 73.3% 全国 74.2%)

## ⑥ 社会に対する興味・関心

- 「新聞やテレビのニュースなどに関心がある」児童の割合は低く、昨年度より約 5 ポイント減少している。

(市 65.5% 全国 66.9%)

- 「今住んでいる地域の行事に参加している」児童の割合は昨年度より7ポイント減少しており、全国に比べて 15 ポイント低い。(市 46.2% 全国 61.6%)

## ⑦ 自尊意識・規範意識等

- 「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」児童が多い。  
(市 92.1% 全国 94.1%)
- 「学校のきまりや友だちとの約束を守っている」児童は多いが、昨年度より若干減少している。  
(きまり:市 83.3% 全国 89.2% 約束:市 94.0% 全国 96.7%)
- ①「人の気持ちが分かる人間になりたい」、②「いじめは、どんな理由があってもいけない」、③「人の役に立つ人間になりたい」と思っている児童が多く、昨年度よりも割合が増加している。  
(① 市 92.6% 全国 92.0% ②市 95.0% 全国 95.0% ③市 94.5% 全国 93.4%)
- 「近所の人に会ったときは、あいさつをしている」児童が多い。(市 89.1% 全国 89.9%)

## 中学校

### ① 学習に対する関心・意欲・態度

- 昨年度と同様、多くの生徒が、①「国語の勉強は大切であり」、②「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」と思っている。  
(① 市 87.1% 全国 89.0% ②市 81.9% 全国 80.9%)
- ・ ①「数学の勉強は大切だと思っている」生徒は昨年度とはほぼ同様であり、②「数学ができるようになりたいと思っている」生徒は昨年度と同様に多い。  
(① 市 76.6% 全国 79.3% ②市 90.1% 全国 92.2%)
- ・ 昨年度と同様、「『総合的な学習の時間』の勉強が好き」と回答した生徒の割合は、「数学の勉強が好き」と回答した生徒の割合を上回っている。また、「国語の勉強が好き」と回答した生徒の割合は、さらに上回っている。  
(国語:市 54.4% 全国 57.2% 数学:市 59.1% 全国 53.3% 総合:市 69.9% 全国 64.5%)
- ①「読書は好きである」と比較的多くの生徒が回答しているが、②「1日あたり30分以上読書している」生徒の割合は少ない。また、③「休み時間や放課後、休日に学校や地域の図書館へ月に1~3回程度以上行く」生徒の割合はさらに低い。  
(① 市 68.7% 全国 68.8% ②\* 市 25.2% 全国 27.3% ③\* 市 6.7% 全国 10.8%)

### ② 学習時間等

- ・ ①「普段、学校の授業時間以外に1日当たり1時間以上勉強する」生徒の割合が昨年度よりやや増加し、②「全くしない」生徒の割合はやや減少している。  
(①\* 市 68.1% 全国 66.2% ②\* 市 8.6% 全国 7.1%)
- 昨年度と同様、「家で学校の宿題をしている」生徒は多い。
- ①「家で自分で計画を立てて勉強をしている」、②「学校の授業の予習や復習をしている」生徒の割合は、昨年度より増加している。  
(① 市 42.2% 全国 41.6% ②予習:市 37.1% 全国 30.9% 復習:市 39.8% 全国 43.5%)
- ①「家で苦手な教科の勉強をする」、②「家でテストで間違えた問題について勉強をする」生徒の割合は、「宿題をする」生徒の割合より多い。  
(① 市 40.9% 全国 43.8% ② 市 39.0% 全国 39.7%)

### ③ 学校生活

- 昨年度と同様、「学校で友達に会うのは楽しい」と思っている生徒が多い。  
(市 95.1% 全国 95.0%)

### ④ 基本的な生活習慣

- 昨年度と同様、①「朝食を毎日食べている」生徒の割合が多く、昨年度よりも増加している。しかし、②「あまり食べていない」生徒もいることは課題である。(① 市 92.1% 全国 93.3% ② 市 7.7% 全国 6.7%)
- 昨年度と同様、「毎日同じくらいに起きている」生徒が多い。(市 90.6% 全国 91.2%)
- 就寝時刻が午前0時以降の生徒の割合は昨年度より減少しているがまだまだ多い。  
(\*午前0時以降に就寝 市 25.6% 全国 27.7%)

- 昨年度と同様、「学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめている」生徒が多い。  
(市 83.1% 全国 84.5%)
- 昨年度と同様、1日に2時間以上①「テレビやビデオ・DVD を見たり、聞いたりする」生徒、②「テレビゲームをする」生徒は多い傾向にある。  
(①\* 市 68.7% 全国 63.6% ②\* 市 23.9% 全国 21.6%)
- 「携帯電話で通話やメールをしている」生徒は、昨年度よりも増加し、多い傾向にある。また、全国より15ポイント以上高い。(市 68.1% 全国 52.8%)

#### ⑤ 家庭でのコミュニケーション

- ①「家の人と普段、夕食を一緒に食べる」生徒は、昨年度よりも若干増え、②「家の人と学校での出来事について話をする」生徒の割合も増加傾向にある。  
(① 市 81.6% 全国 82.7% ② 市 63.5% 全国 63.7%)

#### ⑥ 社会に対する興味・関心

- ・「新聞やテレビのニュースなどに関心がある」生徒は昨年度と同程度である。  
(市 65.3% 全国 64.2%)
- 「今住んでいる地域の行事に参加している」生徒の割合は昨年度とほぼ同程度であり、昨年度は下回ったが、今年度は全国と同程度である。(市 35.3% 全国 34.3%)

#### ⑦ 自尊意識・規範意識等

- 「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことのある」生徒が多い。  
(市 94.7% 全国 91.2%)
- 「学校の規則や友達との約束を守っている」生徒が多い。  
(規則:市 90.2% 全国 90.1% 約束:市 97.0% 全国 96.6%)
- ①「人の気持ちが分かる人間になりたい」、②「いじめは、どんな理由があってもいけない」、③「人の役に立つ人間になりたい」と思っている生徒が多い。  
(① 市 92.3% 全国 92.7% ②市 88.6% 全国 91.1% ③市 91.6% 全国 83.9%)
- 「近所の人に会った時にあいさつしている」生徒が多い。(市 86.5% 全国 83.9%)

学校生活に関する設問では、中学生になると若干数値は低下するものの、多くの児童生徒が、国語や算数・数学の勉強は大切であり、自分の将来にとって有益であると考えていることが明らかになっている。しかしながら、国語や算数・数学が好きと回答した児童は6割台、生徒は6割を切る結果が出ており、学習内容の難易度が上がるにつれて意欲の低下が現れる現状が読み取れる。「わかる・できる授業」を行い、学習意欲の向上をめざす必要がある。また、読書については、7割前後の児童生徒が好きと回答しているながら、あまり実践されていない現状がある。家庭での読書時間の確保等、より一層の啓発が求められる。

一方、ほとんどの児童生徒が学校で友達に会うのは楽しいと思っている。また、ものごとを最後までやり遂げたうれしさを享受したり、規則や友達との約束を守ったりすることができている。さらに、挨拶もよくでき、人を思いやることを大切にしたり、人の役に立ちたいと思ったりしている児童生徒も大変多い。このように、自尊感情や規範意識をしっかり持っている現状を認め、ほめ、伸ばす指導を、今後も心がけていきたい。

家庭生活に関する設問では、家庭学習の課題を与える学校が多くなってきていることもあり、家庭学習の時間が増加する傾向にある。しかしながら、自分で苦手な教科の学習を計画的に進めるなど、見通しを持った主体的な家庭学習ができていない児童生徒は5割程度にとどまっており、家庭学習の進め方に関する指導に力を入れる必要がある。

一方、昨年度に比べ、朝食の摂取率は向上している。また、就寝時刻も若干早めになっており、改善傾向にある。また、家族とともに夕食を食べたり、学校での出来事を話したりする児童生徒が増加傾向にあることも望ましいことである。しかしながら、1日に2時間以上「テレビやDVDを視聴している」児童生徒は7割このぼり、「テレビゲームをする」児童生徒も2割5分程度いる現状を見ると、このような傾向が強い子どもは学力が低い傾向にあるという指摘がある中、大変心配な状況である。さらに、中学生の携帯電話の利用率が全国より15ポイント以上高い現状も注視する必要がある。

社会に対する興味・関心についての設問では、新聞やテレビのニュースに関心がある児童生徒が6割5分で昨年

並みである。また、住んでいる地域の行事への参加は低下傾向にあり、地域社会の一員としての意識付けや、参加に向けた啓発を行うことが必要である。

本年度調査は抽出調査であったことから、昨年度までのように「質問紙調査」と「教科に関する調査」の相関関係を考察するデータの提供はなかった。しかしながら、昨年度調査までの傾向はほぼ変わらないと考えられており、本市においては、昨年度に引き続き、次に挙げるような姿を目指して、学校・家庭・地域が一体となって基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、学力の向上や豊かな心の育成に向けた取組を充実させる必要がある。

<望ましい児童生徒像>

☆…「おだわらっ子の約束」と関連の深い項目

- ☆朝食を毎日食べている。 ☆平日は7時前には起床し、規則正しい生活を送っている。
- ・テレビやDVDの視聴、テレビゲームをする時間が短い。 ・家の人と学校での出来事について話している。
- ☆学校のきまりや友達、家族との約束を守っている。 ☆近所の人と挨拶をしている。
- ・学校の授業時間以外の勉強時間が長い。 ・自分で計画を立てて家庭学習をしている。
- ・学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめている。 ・新聞やテレビのニュースに関心がある。
- ・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。 ・難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している。
- ・人の気持ちがわかる人間、人の役に立つ人間になりたいと思っている。

## 5 学校質問紙調査結果について

○…概ね良好な傾向が見られる項目 □…課題の見られる項目

(小)…小学校について (中)…中学校について

\*全国・市の数値は、「そのとおりだと思う」「どちらかといえばそう思う」など、肯定的な回答の割合の合計

### ① 学習への姿勢

- (中)昨年度と同様、生徒は「熱意をもって勉強している」と回答している学校が多い。  
(市 90.9% 全国 84.4%)
- (小)児童は「熱意をもって勉強している」と回答している学校が全国と比べて少ない。  
(市 84.0% 全国 92.0%)
- (中)昨年度は、全ての学校が「学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をするなど)の維持を徹底している」と回答していたが、徹底できない学校が現れたのは課題である。  
(市 90.9% 全国 96.2%)

### ② 児童・生徒の礼節

- 「学校や地域であいさつするよう指導している」と全ての学校が回答している。  
(小学校:市 100.0% 全国 99.3% 中学校:市 100.0% 全国 98.6%)
- (中)「生徒は礼儀正しい」と回答している学校は、昨年度と同様全国と比べて少ない。  
(市 81.8% 全国 87.0%)

### ③ 学校での学習指導の取組み

- 昨年度と同様、「長期休業期間を利用した補充的な学習サポートを実施している」学校が多い。  
(小学校:市 88.0% 全国 58.6% 中学校:市 100.0% 全国 80.3%)
- 「児童・生徒に対して、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身につくよう指導している」学校は昨年より増えてはいるが、全国と比べて少ない。  
(小学校:市 88.0% 全国 92.7% 中学校:市 72.8% 全国 81.9%)
- 昨年度と同様、「児童・生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている」学校が多い。  
(小学校:市 96.0% 全国 94.4% 中学校:市 100.0% 全国 90.2%)
- 昨年度と同様、国語の指導として、①「漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業」、②「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業」を行っている学校が多い。  
(①小学校:市 100.0% 全国 98.0% 中学校:市 100.0% 全国 97.9%)  
(②小学校:市 92.0% 全国 88.7% 中学校:市 90.9% 全国 76.5%)

- 算数・数学の指導として、「計算問題などの反復練習をする授業を行っている」学校が多い。  
(小学校:市 96.0% 全国 98.0% 中学校:市 90.9% 全国 94.8%)
- (中)数学の指導として①「発展的な学習の指導」、②「実生活における事象との関連を図った授業」を行っている学校が多い。(①市 72.8% 全国 56.7% ②市 72.7% 全国 51.6%)
- 全ての小学校で「朝読書などの一斉読書の時間を設け」ているが、中学校では全国と比べて少ない。  
(小学校:市 100.0% 全国 99.2% 中学校:市 81.8% 全国 91.9%)

#### ④ 全国学力・学習状況調査の活用

- (小)平成21年度全国学力・学習状況調査の①「自校の結果を分析し、指導計画に反映させた」、②「調査問題を平成21年度において、授業の中で活用した」学校が全国と比べて少ない。  
(①市 68.0% 全国 92.4% ②市 44.0% 全国 61.3%)
- (中)平成21年度全国学力・学習状況調査の①「結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用した」、②「調査問題を平成20年度において、授業の中で活用した」、③「学校の指導計画や取り組みを検討するにあたり、調査結果や報告書の内容を参考にした」学校が多い。  
(①市 100.0% 全国 91.5% ②市 72.7% 全国 54.2% ③市 90.9% 全国 80.8%)
- (中)「平成21年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、指導計画に反映させた」学校が多い。  
(市 100.0% 全国 91.1%)

#### ⑤ 家庭との連携・開かれた学校

- 「ボランティア等による授業サポート(補助)」を行っている学校が全国と比べて非常に多い。  
(小学校:市 76.0% 全国 38.5% 中学校:市 90.9% 全国 18.8%)
- 「学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加していただいている」学校が多い。(小学校:市 100.0% 全国 75.9% 中学校:市 90.9% 全国 57.3%)
- (小)昨年度と同様、国語・算数の指導として、①「家庭学習の課題を与え」、②「その評価や指導を行っている」学校が多い。  
(国語:①市 100.0% 全国 99.2% ②市 96.0% 全国 96.2%)  
(算数:①市 100.0% 全国 99.2% ②市 100.0% 全国 96.0%)
- (中)国語・数学の指導として、①「家庭学習の課題を与えている」②「保護者に対して生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っている」学校が多い。しかし、数学では、保護者への働きかけが約20ポイント低下した。  
(国語:①市 90.9% 全国 88.8% ②市 81.8% 全国 70.6%)  
(数学:①市 100.0% 全国 91.9% □②市 63.6% 全国 71.4%)
- (小)国語・算数の指導として、「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っている」学校が昨年と比べてかなり増加しているが、全国と比べると少ない。  
(国語:市 72.0% 全国 80.8% 算数:市 64.0% 全国 81.2%)
- 昨年度と同様、「地域の人が自由に授業参観などができる学校公開日」をすべての学校で設けている。  
(小学校:市 100.0% 全国 83.8% 中学校:市 100.0% 全国 81.8%)
- 「懇談会やアンケート調査を実施して保護者からの意見や要望を聞くこと」を年間3回以上行っている学校が昨年度と比べて小学校では減っているが、中学校では増えている。  
(小学校:市 64.0% 全国 68.5% 中学校:市 90.9% 全国 70.6%)
- 「学校の教育活動の情報について、情報提供のためのホームページの更新」を昨年度、学期に1回以上行った学校が全国と比べてやや少ない。  
(小学校:市 56.0% 全国 67.7% 中学校:市 63.7% 全国 65.6%)
- 「平成21年度調査や学校評価の結果等を踏まえた学力向上の取り組みについて、保護者や地域の人たちに対して働きかけている」学校が全国と比べて少ない。  
(小学校:市 44.0% 全国 74.2% 中学校:市 63.6% 全国 66.8%)

#### ⑥ 教育環境

- 学校の教育用コンピュータ1台あたりの児童・生徒数が、9人未満の学校が少ない。  
(小学校:市 24.0% 全国 65.2% 中学校:市 36.4% 全国 69.4%)

- 「司書教諭が置かれている」学校が全国と比べて多い。  
(小学校:市 76.0% 全国 54.2% 中学校:市 90.9% 全国 55.5%)
- 「学校図書館図書標準が達成されている」学校がおおむね半分程度である。  
(小学校:市 48.0% 全国 54.1% 中学校:市 54.5% 全国 47.4%)

## ⑦ その他

- 昨年度と同様、「テーマを決め、講師を招聘する校内研修や、事例研究などの実践的な研修を行っている」学校が多い。  
(小学校:市 100.0% 全国 92.2% 中学校:市 90.9% 全国 82.4%)
- 昨年度と同様、「授業研究を伴う校内研修」を年間 5 回以上行っている学校が多い。  
(小学校:市 96.0% 全国 83.9% 中学校:市 72.7% 全国 57.6%)
- 昨年度と同様、「学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組みにあたる」ことをすべての学校で行っている。  
(小学校:市 100.0% 全国 98.1% 中学校:市 100.0% 全国 96.5%)

学校は学習規律の指導を徹底し、児童・生徒が落ち着いて学習することは概ねできていると考えられる。しかし、一部の中学校においては、私語をしない、話している人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をするなど、学習規律の徹底をさらに図り、生徒が落ち着いて学習する環境を整えることが望まれる。さらに、小学校においては、児童がさらに熱意を持って勉強できるよう指導を改善することが望まれる。

また、学校は、基礎的・基本的な事項を定着させる指導や思考を深める指導、長期休業を利用した学習サポートに取り組んでいる。新学習指導要領における改訂のポイントも、基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用が強調されており、この状況は大変望ましい傾向である。朝読書等の一斉読書の取組は、概ね実施されている。

全国学力・学習状況調査の活用については、中学校では、平成21年度調査結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用したり、調査問題を授業の中で活用したり、学校の指導計画や取り組みの検討時に参考としたりするなど、平成21年度に引き続き、活用が図られている。

一方、小学校においては、昨年度よりも活用状況が低下しており、調査問題を授業の中で扱うなど、指導計画に位置づけた意図・計画的な活用が望まれる。

家庭・地域との連携・開かれた学校については、PTA・地域の人によるボランティア参加や学校公開日の実施などによる連携が図られており、本市の教育施策の特徴的な側面を反映している。この方向でさらに推進していきたい。一方、学校の教育活動に関するホームページによる情報発信については、改善傾向にはあるものの、より一層充実させることが望まれる。また、本調査の結果や学校評価の結果を踏まえた学力向上の取組について、保護者や地域住民に対して働きかけを行うことについても、より積極的に推進する必要がある。

学校は、児童・生徒に家庭学習の課題を与え、その評価や指導、児童・生徒の家庭学習を促すための保護者への働きかけをよく行っている。家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ることは改善されてきているが全国に比べるとまだまだ課題が残るので一層の努力が望まれる。

また、全国的な結果のクロス集計において、家庭で調べたり文章を書いたりしてくる宿題を出している学校の方がそうでない学校よりも平均正答率が高い傾向にあった。この設問についての本市の状況は、肯定的な回答が小学校 76%(全国比+4 ポイント)、中学校 72.7%(全国比+16 ポイント)であり、大変望ましい傾向である。一方、家庭での勉強方法を具体的に教えている学校でも好結果が得られており、本市の肯定的な回答は小学校 88%(全国とほぼ同じ)であるが、中学校 54.6%(全国比-29.5 ポイント)であり改善が必要である。特に中学校は、家庭学習と連携を進めるほど学力向上の効果が高い結果が出ており、早急な対応が望まれる。

教育環境については、教育用コンピュータの整備が課題である。ICT を活用した指導の重要性が叫ばれている中、インターネット環境の改善を含めた、できるだけ早めの整備が望まれる。読書活動の推進にかかわる環境としては、比較的望ましい形で配置されている司書教諭を中心とした計画的な整備が望まれる。

校内研修については、ほぼすべての学校で、テーマを決め、講師を招聘し、事例研究などの実践的な研修を行っている。今後は、教員同士の学び合い、いわゆる OJT を積極的に活用した校内研修の充実にも努め、その成果を学校間で交流することにより、よりよいものを開発・共有していくことが期待される。

## 6 まとめ

教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査、学校質問紙調査の結果から、各学校や教育委員会において、次の点に取り組むことが大切であると考えられる。

### 学校において

#### ○ 授業改善、指導方法の充実・改善

各教科における授業改善、指導法の充実・改善を図るために、次のような視点の見直しが大切である。

【小学校国語】…思考を深めて、表現につなぐための学習活動の工夫

【中学校国語】…思考を深めて、表現につなぐための学習活動の工夫

【小学校算数】…授業の中で「数学的解釈・表現力」を育てるための工夫

【中学校数学】…授業の中で、生徒同士の「コミュニケーション活動」を取り入れる工夫

今回の分析でも、昨年度までと同様、国語と算数・数学で培った学力が、相互に補完しあうことにより、一層高まることが明らかとなった。従って、教科の枠の中に留まらず、教科間のつながりを意識して指導や「言語活動の充実」を意識した指導を、一層重視したいところである。また、「小田原市子ども読書活動推進計画」に基づき、発達の段階に応じた読書活動の推進に力を入れる必要がある。

また、教員の指導力の向上をめざし、教員同士の学び合いのある校内研究をさらに充実させ、その成果を他校に発信し、各学校での共有化を図ることが期待される。また、日頃の教員同士の教え合い、いわゆるOJTを推進し、研修の日常化をめざすとともに、教員間の望ましい人間関係を構築することが、学力向上を円滑に推進するための組織的な対応には欠かせない。

さらに、この全国学力・学習状況調査の結果は、調査対象学年・教科のみの成果・課題としてとらえることなく、今までの指導の積み重ねであり、他教科の指導にもつながるものであるという考えのもと、学校全体で活用し、学習意欲の喚起とともに児童・生徒への指導にいかしていくことが肝要である。また、小学校における課題が、そのまま中学校における課題にもつながっている側面があり、小中学校の教員双方が課題を共有することが大切であり、例えば合同研究会で話題に挙げるなど、幼・保・小・中一体教育を一層推進していくことが必要である。

#### ○ 保護者・地域との連携

『おだわらっ子の約束』をいかし、基本的な生活習慣や規範意識の確立を図る」「家庭と連携し、個に応じた家庭学習の充実を図る」「地域と連携し、スクールボランティアの一層の推進を図る」など、保護者・地域と共に、地域一体教育を推進していくことが、教育のさらなる充実につながると考える。

### 教育委員会において

#### ○ 授業改善、指導方法の充実・改善

児童・生徒一人ひとりの確かな学力の向上をめざし、「基礎・基本の定着」と「活用する力の育成」の両面の充実した指導をめざし、「教職員アカデミープランに基づいた授業改善を図るための研究・研修」、「校内研究の充実を図るための施策」、「授業評価を活用した授業改善の工夫」などをさらに充実させることが大切である。

#### ○ 教育環境の整備

普通教室への校内LAN整備や教育用コンピュータのさらなる充実を早急に進める必要がある。

#### ○ 保護者・地域との連携

子どもたちに「生きる力」を育むために、『おだわらっ子の約束』をいかし、基本的な生活習慣や規範意識の確立を図る」「地域と連携し、スクールボランティアの一層の推進を図る」など、幼・保・小・中一体教育、地域一体教育を一層推進していくことが大切である。

また、子どもの読書活動を充実させるために、「小田原市子ども読書活動推進計画」に基づいた施策を着実に実施していくことが求められる。

# 史跡小田原城跡調査・整備委員会植栽専門部会 部会員名簿

〔資料2〕

	専門等	氏名	役職等
1	学識経験者 (城郭)	小笠原 清	・小田原市文化財保護委員会委員 ・史跡小田原城跡調査・整備委員会副委員長 ・報徳博物館館長
2	学識経験者 (都市工学)	小出 和郎	・史跡小田原城跡調査・整備委員会委員 ・大学講師 ・株式会社都市環境研究所代表取締役所長
3	学識経験者 (造園)	宮内 泰之	・史跡小田原城跡調査・整備委員会委員 ・大学講師
4	学識経験者 (植物)	勝山 輝男	・小田原市文化財保護委員会委員 ・神奈川県立生命の星・地球博物館企画普及課長
5	学識経験者 (考古)	杉山 幾一	・NPO法人地域歴史環境資源保存活用支援機構理事長
6	学識経験者 (造園)	鈴木 崇	・日本ガーデンデザイン専門学校講師 ・1級造園施工管理技士 ・鈴木崇造園設計事務所代表取締役
7	学識経験者 (樹木)	富田 改	・樹木医 ・日本樹木医学会神奈川県支部 ・株式会社湘南グリーンサービス代表取締役
8	市民委員	石川 信雄	・小田原市自治会総連合会長
9	市民委員	榎本 保美	・NPO法人小田原ガイド協会会長
10	市民委員	森谷 昭一	・森林インストラクター ・小田原市環境再生プロジェクト検討委員会委員 ・マイクロコスモス出版編集長
11	市民委員	鈴木 志眞夫	・小田原城址の緑を守る会代表
12	市民委員	杉山 実	・歴史と文化のまち小田原を考える会代表

○オブザーバー

- ・神奈川県教育委員会教育局生涯学習部文化遺産課
- ・株式会社文化財保存計画協会

## ○史跡小田原城跡調査・整備委員会植栽専門部会設置要領

(平成 22 年 12 月 9 日)

史跡小田原城跡調査・整備委員会植栽専門部会設置要領

(設置)

**第 1 条** この要領は、史跡小田原城跡調査・整備委員会設置要綱第 9 条の規定に基づき、史跡小田原城跡調査・整備委員会植栽専門部会（以下「専門部会」という。）の設置、組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

**第 2 条** 専門部会は、次に掲げる事務を行う。

- (1) 史跡整備における植栽の取扱いに関すること。
- (2) 史跡小田原城跡本丸・二の丸植栽管理計画の短期実施計画に位置付けた樹木の具体的な検証等に関すること。

(組織)

**第 3 条** 専門部会は、部会員 1 2 人以内をもって組織し、次に掲げる者のうちから教育委員会が決定する。

- (1) 学識経験者
- (2) 市民

(部会員の任期)

**第 4 条** 部会員の任期は、2 年とする。ただし、補欠部会員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 部会員は、再任されることができる。

(部会長及び副部会長)

**第 5 条** 専門部会に部会長及び副部会長 1 人を置き、部会員の互選により定める。

- 2 部会長は、会務を総理する。
- 3 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

**第 6 条** 専門部会の会議は、部会長が招集し、その議長となる。

- 2 専門部会は、部会員の 2 分の 1 以上の出席がなければ会議を開くことができない。
- 3 専門部会の議事は、出席した部会員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(関係者の出席)

**第 7 条** 専門部会において必要があると認めるときは、部会員以外の者に出席を求め、又は資料の提出を求めることができる。

(指導及び助言)

**第8条** 専門部会の運営に当たっては、必要に応じ、文化庁や神奈川県及び史跡小田原城跡調査・整備委員会の指導助言を受けることができる。

(庶務)

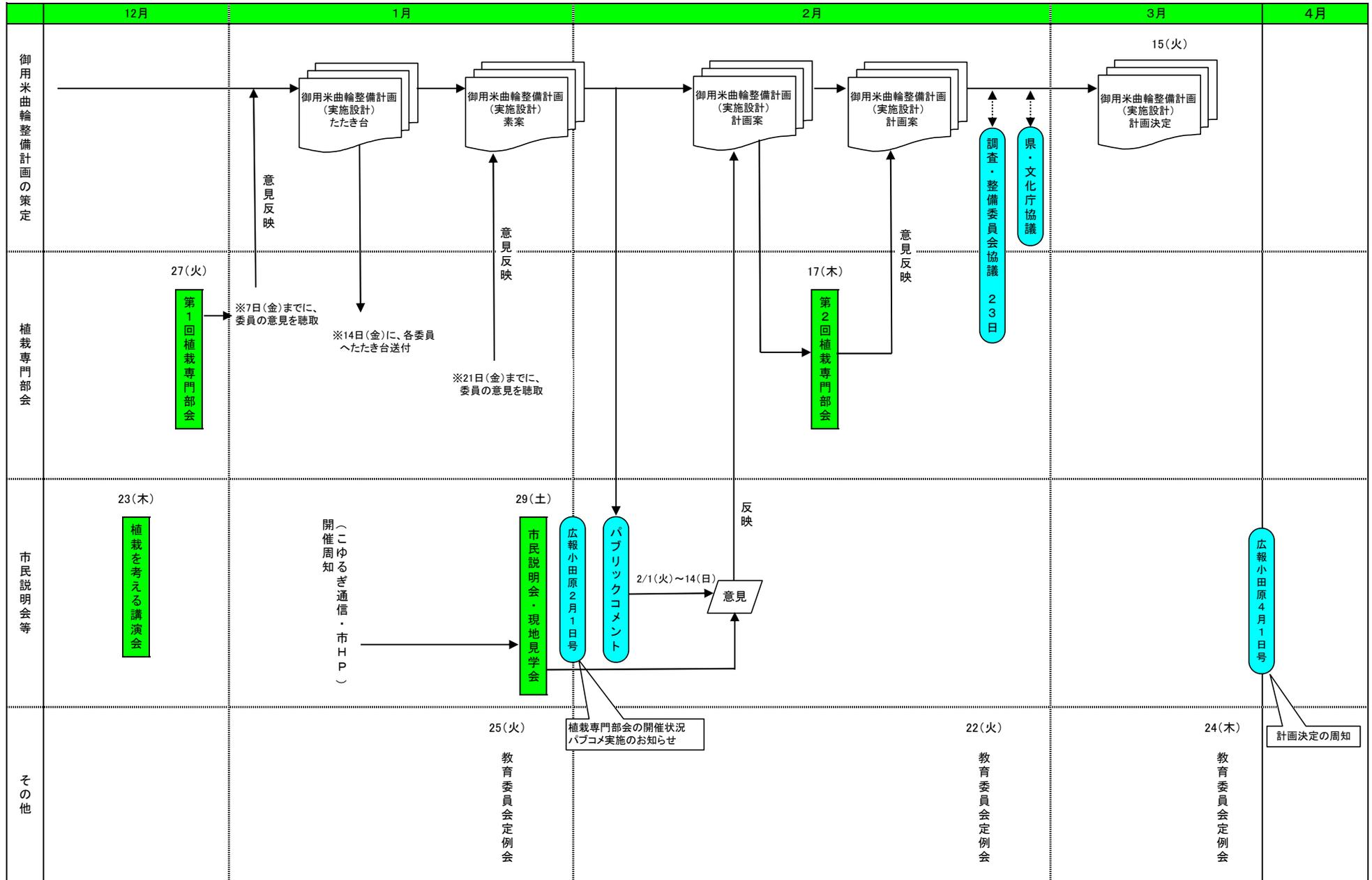
**第9条** 専門部会の事務は、生涯学習部文化財課において処理する。

(委任)

**第10条** この要領に定めるもののほか、専門部会の運営に関し必要な事項は、部会長が専門部会に諮って別に定める。

#### **附 則**

この要綱は、平成22年12月9日から施行する。



## 酒匂川スポーツ広場の災害復旧工事について

平成 22 年 9 月 8 日の台風 9 号から変わった熱帯低気圧による大雨被害を受けた酒匂川スポーツ広場の復旧工事の状況については次のとおりです。

## 1 工事実施概要

整備項目	内容	整備場所	整備面積、購入内訳等
グラウンド復旧	下床拵え、盛土、転圧、整地	野球場 2 面	4,599 m <sup>2</sup> (他に芝生補修あり)
		サッカー場 2 面	12,921 m <sup>2</sup>
		ソフトボール場 4 面	4,769 m <sup>2</sup> (他に芝生補修あり)
		少年野球場 2 面	2,833 m <sup>2</sup>
		ゲートボール場 10 面	848 m <sup>2</sup>
施設整備		野球場、ソフトボール場	バックネット復旧、外野ネット設置、仕切りネット
		少年野球場	バックネット、仕切りネット
		サッカー場	仕切りネット
備品購入		野球場、ソフトボール場、少年野球場	ピッチャープレート、ベース、ベンチ 16 脚
		ソフトボール場	移動式外野フェンス (開催規定でフェンスの設置が必要となっている大会用)
		サッカー場	ゴール 大人用 2 セット、子供用 1 セット、ベンチ 4 脚
場内整備	盛土、転圧、整地	駐車場整備	整備後、芝生播種
		ソフトボール場外	
		野球場上流大穴	
付帯工		堆積ごみ、流木、礫、土砂等片付け、側溝浚渫等	

## &lt;各施設の改良点&gt;

場 所	従来設備	復旧後設備
		改良点
ソフトボール場グラウンド間の仕切りネット (図中①)	金属フェンス	ネット 撤去が容易となり、水害時の被害を減少できる
野球場及びソフトボール場のバックネット (図中②)	全面金網	上部：金網、下部：ネット 撤去が容易となり、水害時の被害を減少できる
ソフトボールグラウンドの外野フェンス (図中③)	2m×1.2mの塩ビの枠にネットを張ったものを並列	ネット 撤去が容易となり、水害時の被害を減少できる
駐車場等 (図中④)	砕石舗装	野芝・牧草等の播種 水害時の土の流出対策及び車両通行時の緩衝作用効果が期待できる

2 完成予定日：2月16日

3 開放予定日

- ・工事完成后、グラウンド面を安定させるため、しばらく置いてから開放する。  
→ 一般利用は3月からの予定（1月から抽選申込み受付中）

4 市民へのお知らせ

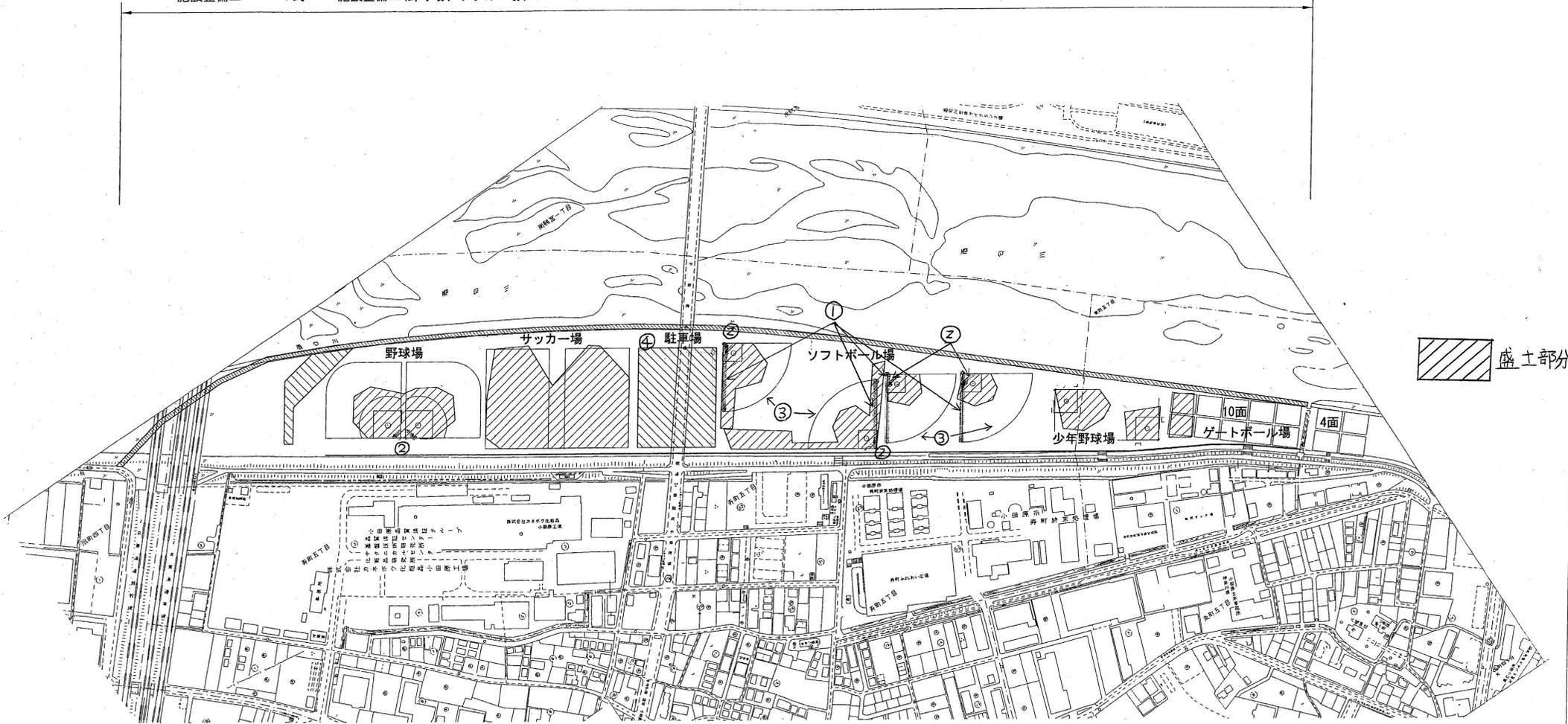
- ・広報おだわら2月15日号に掲載
- ・小田原市のホームページへの掲載
- ・こゆるぎ通信配信
- ・酒匂川スポーツ広場を利用している各種目協会に連絡

5 その他

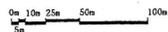
- ・7月24日に焼失したトイレについては、グラウンド復旧に合わせ仮設トイレを3基設置。

# 平成22年度 酒匂川スポーツ広場冠水被害復旧工事 全体平面図

- |          |    |   |
|----------|----|---|
| 付帯工      | 1式 | 堆積ごみ処理工：7,700㎡、散乱不燃物処理工：3,850㎡、側溝清掃工：1,300㎡   |
| グラウンド復旧工 | 1式 | 盛土工(野球場2面)：4,599㎡、盛土工(サッカー場2面)：12,921㎡、盛土工(ソフトボール場4面)：4,769㎡、盛土工(少年野球場2面)：2,833㎡、盛土工(ゲートボール場14面)：848㎡<br>盛土部下床拵え工：25,970㎡、外野部芝生補修工：1,965㎡ |
| 場内整備工    | 1式 | 橋梁下部駐車場整備工：3,945㎡、ソフトボール場外盛土整地工：5,860㎡、野球場上流大穴復旧工：1,965㎡  |
| 防護柵他復旧工  | 1式 | フェールポール修正工：2基   |
| 施設整備工    | 1式 | 施設整備工(野球場、サッカー場、ソフトボール場、少年野球場)：各1式  |



 盛土部分



工事名	平成22年度 酒匂川スポーツ広場冠水被害復旧工事		
図面種別	全体平面図		
縮尺	S=1:2000	図面番号	全1葉中-第1葉
施工箇所	小田原市 寿町五丁目 地内		
設計月日	平成22年10月		
課長	相主	設計	製図
	担当		照査
小田原市役所 建設部 みどり公園課			